

奈良県民の生活意識・行動等に関する調査結果

要 約

- ①奈良県のプラスイメージは、「歴史のある」80.2%が最多で、次いで「落ち着いた」、「美しい」が続く。
- ②マイナスイメージは、「保守的な」37.6%が最多で、次いで「活気がない」、「閉鎖的な」が続く。性別では男性、年代では「50歳代」以上での評価が厳しい。若い世代はマイナス評価がやや少ない。
- ③約3人に1人(35.6%)が奈良県の経済・産業の衰退を懸念している(「発展・成長している」:5.7%)。
- ④居住地域の生活環境に対する認識は、地域間格差、世代間格差が発生していると思われる。「60歳代」では約10人に1人が「かなり悪くなっている」としている。
- ⑤県民の約8割は、奈良県に愛着を感じているが、約10人に1人は奈良県に愛着を感じていない。
- ⑥県民の約6割は、奈良県民であることを誇りに思っているが、約5人に1人は誇りに思っていない。
- ⑦県民の約6割が「ほぼ毎月1回以上」、買物や余暇活動などで県外へ出かけるとしているが、県内で余暇活動(買物は含まない)を楽しむ頻度で「ほぼ毎月1回以上」は県民の約1/4にとどまっている。
- ⑧県内での余暇活動の増減傾向は「増えている」が14.1%、「減っている」が25.1%となっている。
- ⑨居住地域を暮らしやすくするための優先課題は、「医療・福祉サービスの充実」41.5%が最も多く、次いで「美しい快適な街並みづくり」、「緑や河川など自然環境の整備」、「商業・娯楽施設の充実」が続いている。

*参考として、2007年6月に当センターで実施した県内企業の調査結果(図3、図6、図17)も掲載している。

調査結果の留意点

- ①四捨五入の関係で、比率の合計が100%にならない場合がある。
 - ②複数回答の質問では、回答者総数を分母に構成比を算出しているため、百分率の合計が100%を超える場合がある。
- *「n」=回答者総数、あるいは各質問の該当者数

【調査要領】

①調査実施時期

2007年8月1日(水)～8月2日(木)

②調査方法

奈良県下の南都銀行の本支店(34か店)の来店客にアンケートへの回答を依頼(無記名方式)。

【調査実施店舗(順不同)】

本店営業部、紀寺、西大寺、西ノ京、平城、学園前、登美が丘、富雄、生駒、東生駒、郡山、筒井、天理、天理南、名阪針、桜井、榛原、菟田野、大淀、上市、高田、高田本町、香芝、真美ヶ丘、新庄、御所、橿原、真菅、神宮前、王寺、西大和、法隆寺、田原本、五条

③調査対象者…1,000人【対象:奈良県に居住の方】

うち有効回答者数997人【有効回答率:99.7%】

【回答者の概要】

①性別(図表不掲載)

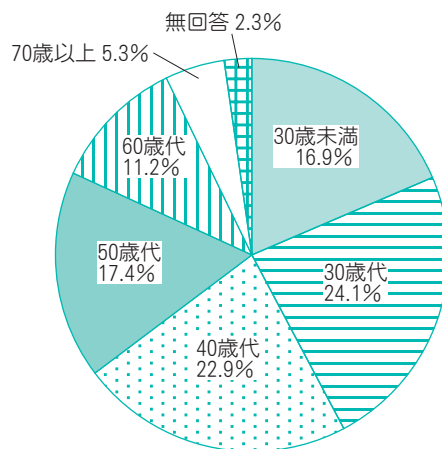
「男性」が40.1%(400人)、「女性」が57.8%(576人)、「無回答(不明)」が2.1%(21人)。

②年齢(参考:図1)

「30歳代」が24.1%と最も多く、次いで「40歳代」22.9%、「50歳代」17.4%が続いている。

なお、「19歳以下」は1.8%(18人)と少ないため、本稿では「19歳以下」を「20歳代」15.0%と合算し、「30歳未満」16.9%として分析している。

参考:図1 回答者の年齢



1 奈良県に対するプラスイメージ

奈良県に対してどのようなプラスイメージ（良い印象）を持っているか、17の選択肢の中から回答者のイメージに近いもの【複数回答：主なもの5つ以内】を聞いたところ、全体では「歴史のある」80.2%が最も多く、次いで「落ち着いた」56.8%、「美しい」32.6%、「親しみのある」29.6%、「あたたかい」24.4%、「快適な」15.3%が続いている（図1）。

性別では、男性・女性とも上位14位まで全体と同順位となっている。個別項目では、「歴史のある」は女性（83.0%）が男性（76.8%）より約6ポイント高い。また、「美しい」は男性（35.5%）が女性（30.2%）より約5ポイント高くなっている。

年代別の特徴をみると、「歴史のある」は、「30歳代」（86.7%）、「40歳代」（85.1%）、「50歳代」（82.7%）で80%以上と高いが、「70歳以上」で58.5%と約20ポイント低くなっている。「美しい」は、「50歳代」（45.1%）で全体より約12ポイント高い（図2）。

特に、「70歳以上」では、「便利な」「豊かな」「活気のある」で他の年代よりもプラス評価の割合が多い。

	便利な	豊かな	活気のある
全体	10.3%	8.9%	2.9%
70歳以上	28.3%	15.1%	17.0%

県民と県内企業の回答状況を比較すると、県民でプラス評価の割合がやや多くなっている（図3）。

図3 奈良県のプラスイメージ【県民の上位10項目】

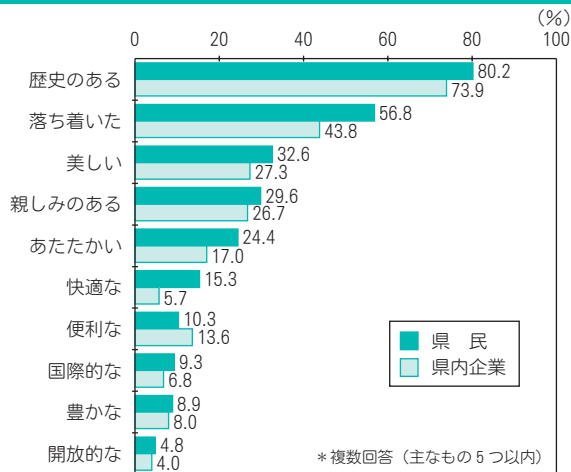


図1 奈良県のプラスイメージ【上位10項目】

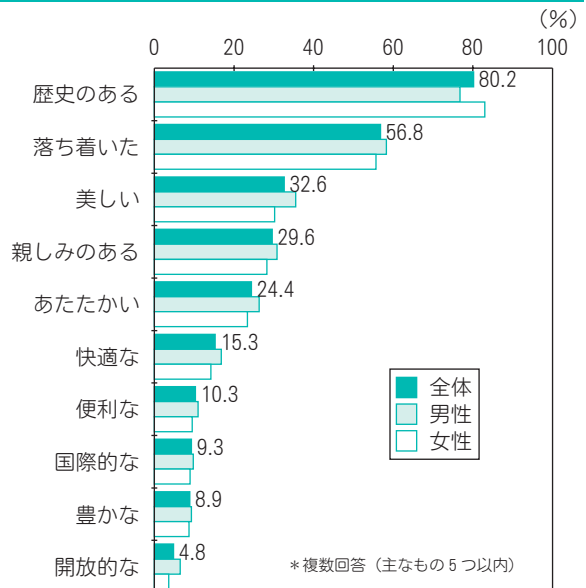
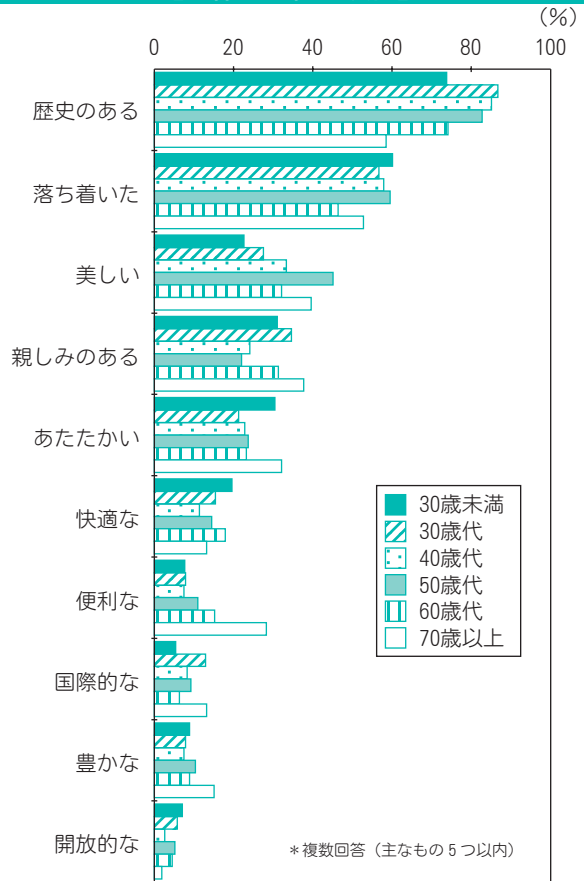


図2 奈良県のプラスイメージ【全体の上位10項目】



特集

2 奈良県に対するマイナスイメージ

奈良県に対してどのようなマイナスイメージ（悪い印象）を持っているか、17の選択肢の中から回答者のイメージに近いもの【複数回答：主なもの5つ以内】を聞いたところ、全体では「保守的な」37.6%が最も多く、次いで「活気がない」35.1%、「閉鎖的な」31.3%、「不便な」31.3%、「おきている」25.2%、「変化を嫌う」20.1%が続いている（図4）。

性別では、男性が上位6位まで全体と同順位となっているが、女性は2位以下の順位が異なる。個別項目をみると、「保守的な」「活気がない」「閉鎖的な」「変化を嫌う」で、男性が女性より約6~11ポイント高くなっており、男性の評価がやや厳しいと言える。

年代別の特徴をみると、「保守的な」は「60歳代」（51.8%）で最も高く、「活気がない」は「50歳代」「70歳以上」（共に43.4%）で最も高い。また、「古くさい」は「70歳以上」（30.2%）で全体より約17ポイント高くなっているなど、「50歳代」以上での評価が厳しい。一方、「30歳未満」では「保守的な」「閉鎖的な」の割合が相対的に少なく、一方で「マイナスイメージを持っていない」は16.1%となっており、若い世代は奈良県に対するマイナス評価がやや少ない（図5）。

県民と県内企業の回答状況を比較すると、県内企業でマイナス評価の割合が多くなっている（図6）。

図6 奈良県のマイナスイメージ【県民の上位10項目】

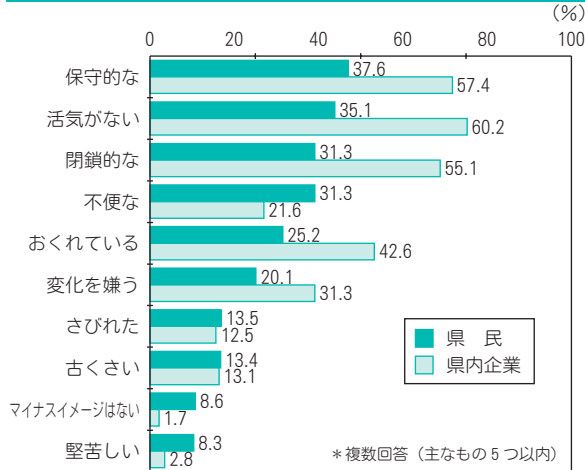


図4 奈良県のマイナスイメージ【上位10項目】

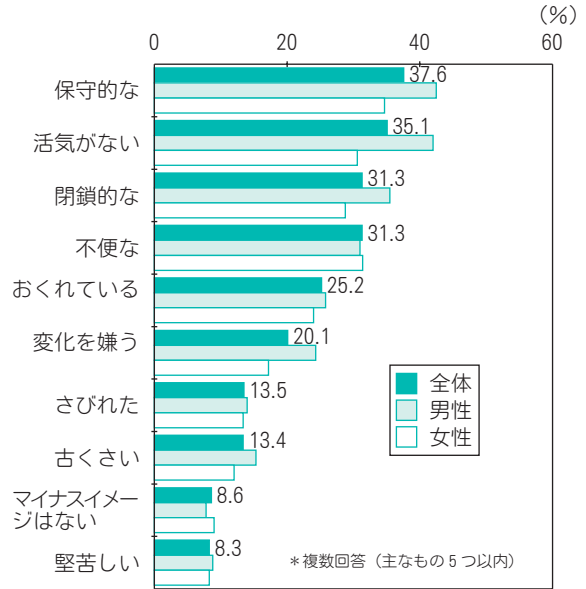
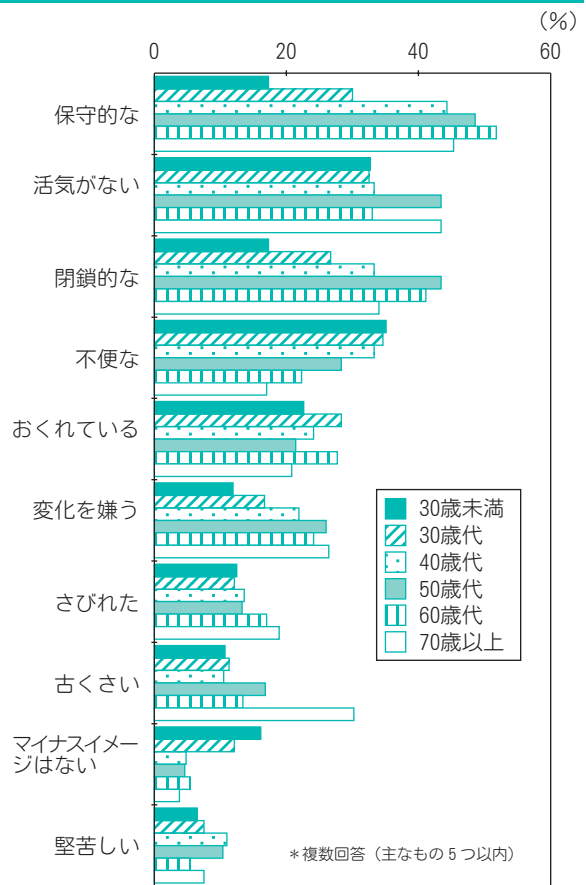


図5 奈良県のマイナスイメージ【全体の上位10項目】



3 奈良県の経済・産業に対する認識

奈良県の経済・産業について、どのような認識を持っているか聞いたところ、全体では「発展・成長している」が5.7%と少ないが、「衰退している」は35.6%と多く、3人に1人が奈良県の経済・産業の衰退を懸念している。なお、「どちらとも言えない」は47.7%、「わからない」は10.1%となっている（図7）。

性別では、「発展・成長している」は男性（6.0%）と女性（5.0%）でほとんど差異はないが、「衰退している」は男性（42.8%）が女性（30.7%）より約12ポイント高く、評価が厳しいと言える。

年代別では、「発展・成長している」は、「30歳未満」（7.7%）、「30歳代」（5.4%）と年代が上がるほどその割合が少なくなり、「60歳代」（1.8%）で最も少ない。なお、「発展・成長している」が最も多かったのは「70歳以上」（13.2%）である。

一方、「衰退している」は「50歳代」（46.8%）で最も多く（40・50歳代の男性は約58%）、「30歳代」「70歳以上」（共に32.1%）、「30歳未満」（26.8%）で少ない。

なお、「30歳未満」では「わからない」が28.6%と全体の3倍近くあり、奈良県の経済・産業に対する関心の低さがうかがわれる。

次に、職業別に「衰退している」の割合をみると、「自営業者（含む農業）」（50.9%）が最も多く、次いで「会社・団体役員」（48.7%）、「教員・公務員」（43.8%）、「会社員」（39.1%）が続いている。最も少ないのは、「学生」（18.5%）となっている（図8）。

図8 奈良県の経済・産業に対する認識【「衰退している」の割合：職業別】

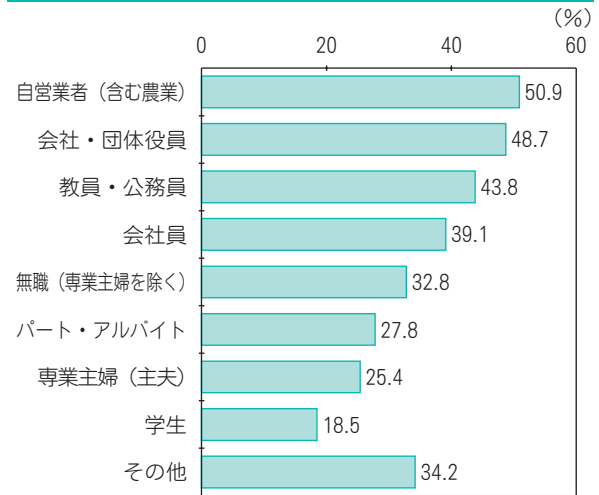
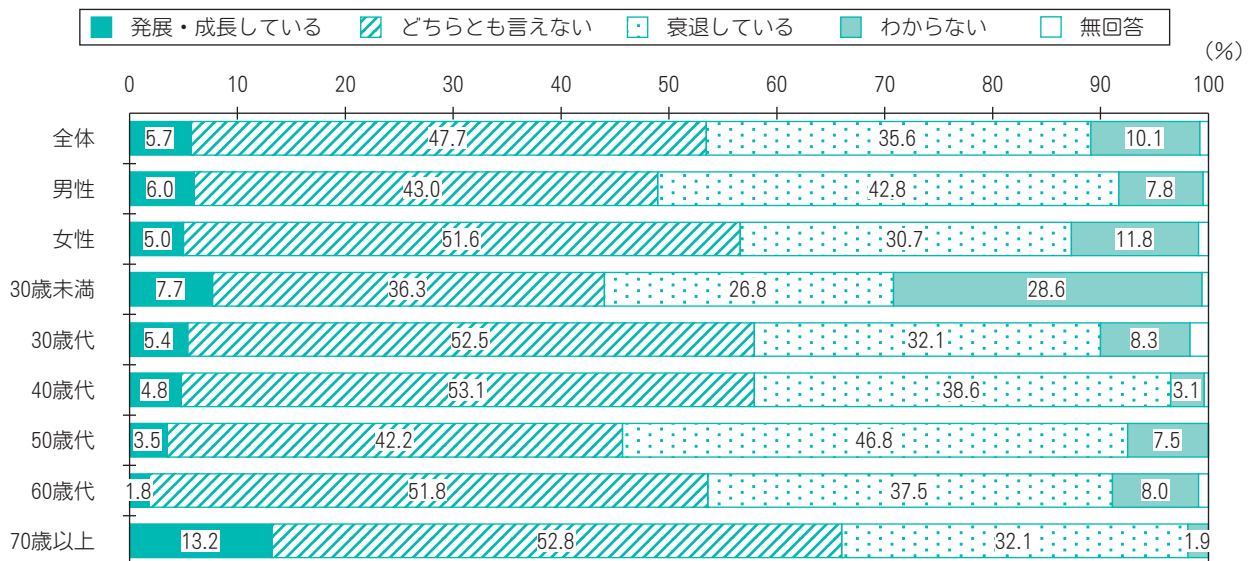


図7 奈良県の経済・産業に対する認識



特集

4 居住地域の生活環境の変化

回答者が居住している地域の生活環境が5年程前と比較してどのようになっているか聞いたところ、全体では「かなり良くなっている」7.3%、「やや良くなっている」33.6%と、「かなり」「やや」合わせて40.9%が「良くなっている」としている。一方、「かなり悪くなっている」4.3%、「やや悪くなっている」17.9%と、「かなり」「やや」合わせて22.2%が「悪くなっている」としている（「変わっていない・どちらとも言えない」35.9%）（図9）。

性別で見ると、「良くなっている」は男女でほとんど差がみられない（男性：40.0%、女性：41.9%）が、「悪くなっている」は男性（26.5%）が女性（19.3%）より約7ポイント高く、評価がやや厳しい。

年代別の特徴を見ると、「良くなっている」は、「30歳未満」（50.0%）、「30歳代」（45.0%）と年代が上がるほどその割合が少なくなり、「60歳代」（33.0%）で最も少なくなっている。

なお、「良くなっている」は「70歳以上」（41.5

%）でやや増加し、特に約6人に1人（17.0%）が「かなり良くなっている」としており、高齢者には地域の生活環境の改善を高く評価している人が多いと言える。

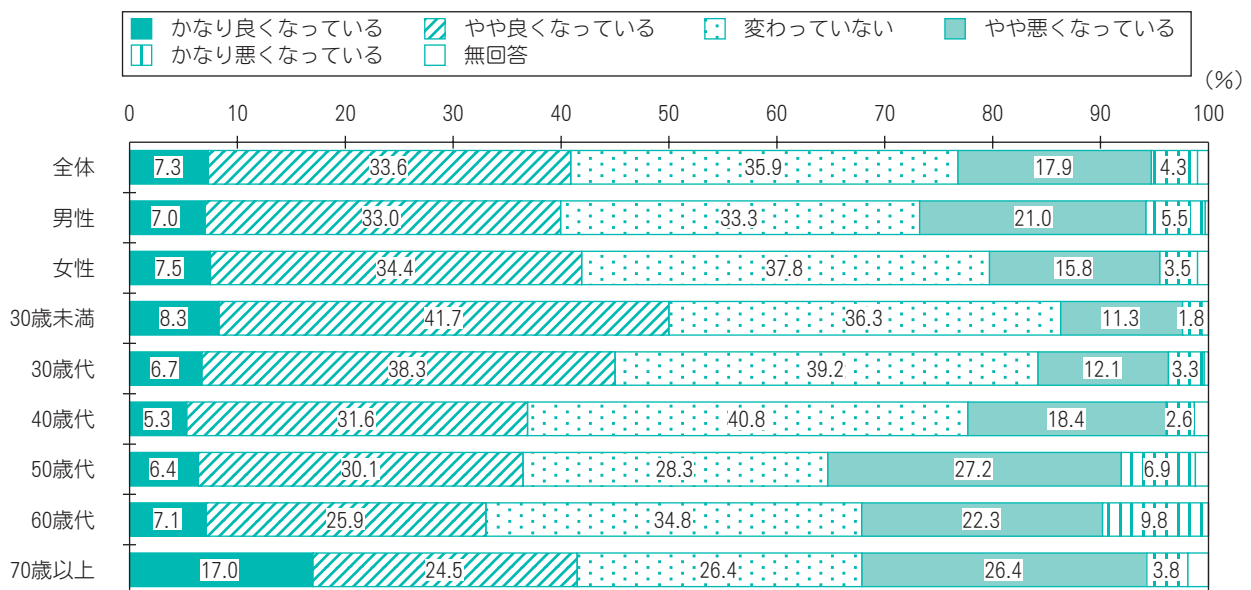
一方、「悪くなっている」は、「50歳代」（34.1%）、「60歳代」（32.1%）、「70歳以上」（30.2%）で30%を超えている。特に「60歳代」では約10人に1人（9.8%）が「かなり悪くなっている」としている。このように、居住地域の生活環境の捉え方については、世代間での乖離がみられる。

なお、「悪くなっている」は、「30歳未満」（13.1%）、「30歳代」（15.4%）では全体より少なく、地域の生活環境に対する評価がそれほど厳しくない。

次に、職業別に「良くなっている」の割合を見ると、「パート・アルバイト」（46.9%）、「専業主婦（主夫）」（46.2%）、「会社員」（45.4%）が多い（図表不掲載）。

一方、「悪くなっている」の割合を見ると、「教員・公務員」（39.1%）、「自営業者（含む農業）」（36.8%）が多いが、「学生」（3.7%）で最も少なくなっている。

図9 居住地域の生活環境の変化【5年程前との比較】



5 奈良県への愛着

奈良県に愛着を感じているか聞いたところ、全体では「非常に感じている」35.4%、「少し感じている」47.1%と、「非常に」「少し」合わせて82.5%が「感じている」としている。一方、「ほとんど感じていない」2.5%、「あまり感じていない」8.2%と、「ほとんど」「あまり」合わせて10.7%が「感じていない」としている（「どちらとも言えない」6.4%）。県民の大半（全体の約8割）が奈良県に愛着を感じているとしているが、約10人に1人は奈良県に愛着を感じていない（図10）。

性別で見ると、「感じている」は男性（85.5%）が女性（80.9%）よりやや多くなっている。

年代別の特徴を見ると、「感じている」は、「30歳未満」（85.1%）、「50歳代」（85.0%）、「60歳代」（85.7%）で、他の年代よりやや多くなっている。特に「70歳以上」では、約2人に1人（47.2%）が「非常に感じている」としている。

一方、「感じていない」は、「30歳代」（13.8%）で最も多く、「30歳未満」（8.3%）、「60歳代」（7.1%）、「70歳以上」（7.5%）では他の年代より

やや少ない。

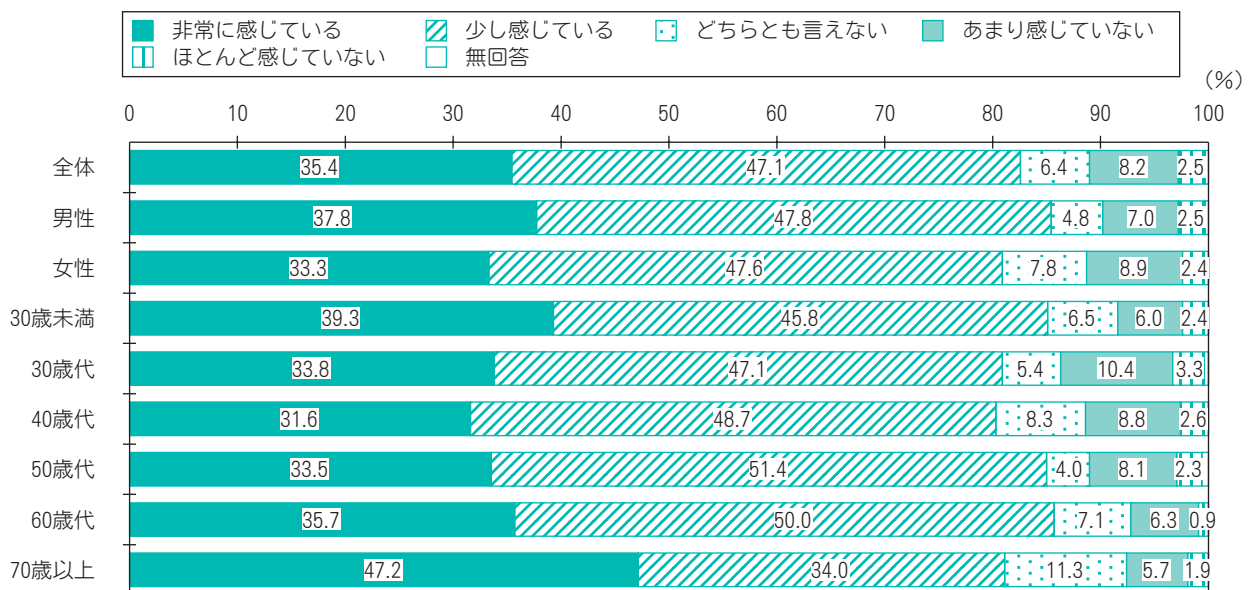
次に、職業別に「感じている」の割合をみると、「自営業者（含む農業）」（87.7%）、「教員・公務員」（85.9%）がやや多い。一方、最も少ないのは「学生」（70.4%）で、特に「非常に感じている」は「学生」（22.2%）で最も少なくなっている（図表不掲載）。

一方、「感じていない」の割合は、「教員・公務員」（14.1%）が最も多く、「自営業者（含む農業）」（7.0%）、「会社・団体役員」（7.7%）で少なくなっている。

居住年数別にみると、「非常に感じている」は、「5年～10年未満」（14.9%）が最も少なく、居住年数が増えるに従って「非常に感じている」の割合が増加し、「30年以上」（42.5%）で最も多い（図表不掲載）。

一方、「感じていない」は「5年～10年未満」（21.3%）で最も多く、居住年数が増えるに従ってその割合が減少し、「30年以上」（6.5%）で最も少なくなっている。

図10 奈良県への愛着



特集

6 奈良県民であることの誇り

奈良県民であることを誇りに思うか聞いたところ、全体では「非常に思う」21.8%、「少し思う」42.0%と、「非常に」「少し」合わせて63.8%が「思う」としている。一方、「ほとんど思わない」3.6%、「あまり思わない」18.4%と、「ほとんど」「あまり」合わせて22.0%が「思わない」としている（「どちらとも言えない」13.7%）。県民の約6割は、奈良県民であることを誇りに思っているが、約5人に1人は誇りに思っていないとしている（図11）。

性別でみると、「思う」は男性（66.8%）が女性（62.3%）よりやや多くなっているが、「思わない」は男女でほとんど差がみられない（男性：21.0%、女性：22.0%）。

年代別の特徴をみると、「思う」は、「60歳代」（70.5%）で最も多く、「30歳代」（60.8%）で最も少なくなっている。なお、「70歳以上」では約3人に1人（30.2%）が「非常に思う」としている。一方、「思わない」は、「50歳代」（25.4%）で最も多く、「70歳以上」（18.9%）で他の年代

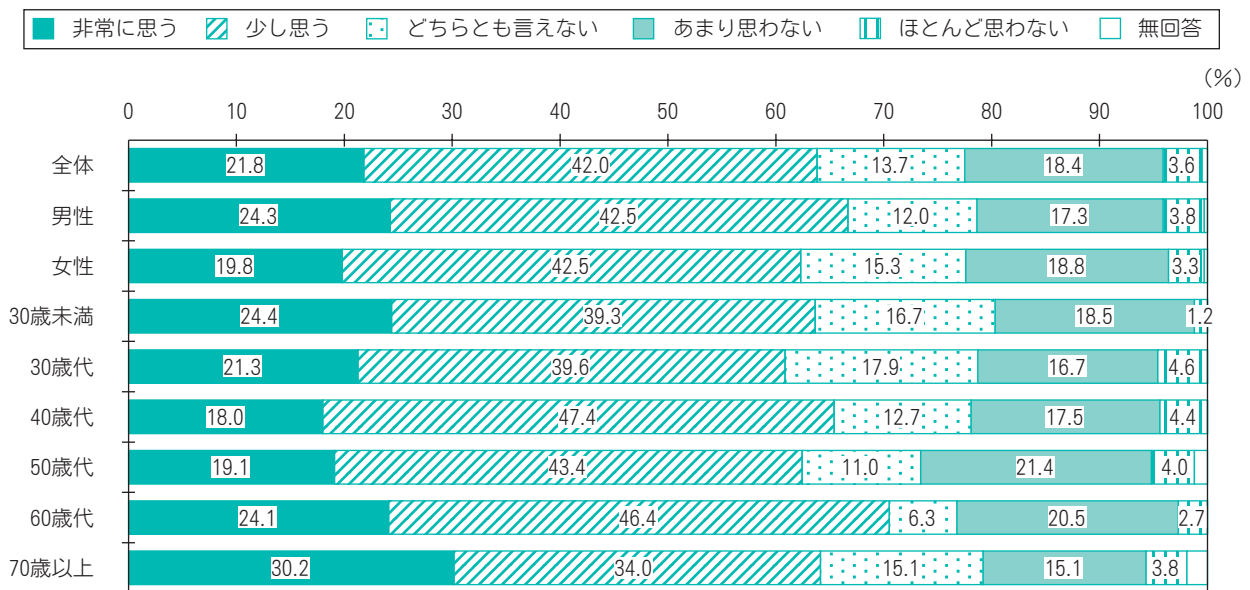
よりやや少ない。

次に、職業別に「思う」の割合をみると、「自営業者（含む農業）」（72.8%）、「会社・団体役員」（71.8%）が多いが、「学生」（44.4%）で最も少なくなっている（図表不掲載）。

一方、「思わない」の割合は、「教員・公務員」（約3人に1人：29.7%）、「無職（専業主婦を除く）」（26.2%）、「学生」（25.9%）が他の職業よりも多くなっている。なお、「思わない」は、「会社・団体役員」（15.4%）、「自営業者（含む農業）」（15.8%）で少なくなっている。

居住年数別にみると、「思う」は、「5年～10年未満」（38.3%）が最も少なく、「30年以上」（69.2%）で最も多くなっている。一方、「思わない」は「5年～10年未満」（36.2%）で最も多く、「30年以上」（19.4%）で最も少なくなっている（図表不掲載）。

図11 奈良県民であることの誇り



7 買物や余暇活動等で県外へ出かける頻度

買物や余暇活動などを楽しむために県外へ出かける頻度を聞いたところ、全体では「月に2回程度」27.6%が最も多く、次いで「2～3か月に1回」21.4%、「ほぼ毎月1回」17.1%、「ほぼ毎週」12.4%、「年に2～3回」12.2%が続いている。なお、「ほとんどない」は6.8%となっている（図12）。

頻度の高い順（累計）にみると、「ほぼ毎週」12.4%、「月に2回程度以上」40.0%（12.4%+27.6%）、「ほぼ毎月1回以上」57.1%（12.4%+27.6%+17.1%）となっており、県民の約6割が買物や余暇活動などを楽しむために「ほぼ毎月1回以上」県外へ出かけている。県内に魅力的な消費・行楽等の場が少ないことが、県外への訪問頻度を高めている一因と思われる。

性別でみると、「ほぼ毎週」は、男女でほとんど差がみられない（男性：12.3%、女性：12.5%）。「月に2回程度以上」は、男性（44.8%）が女性（37.3%）より7.5ポイント高い。「ほぼ毎月1回以上」でも、男性（61.0%）が女性（54.7%）より約6ポイント高くなっている。

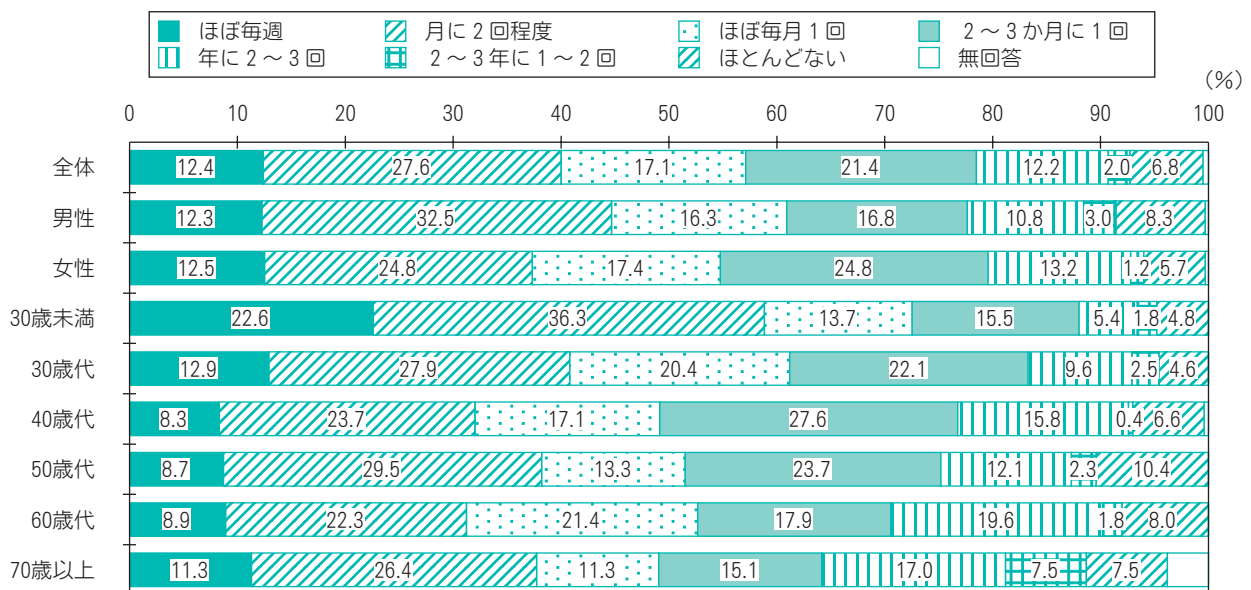
年代別の特徴をみると、「ほぼ毎週」は、「30歳未満」（22.6%）が最も多く、「40歳代」（8.3%）、「50歳代」（8.7%）、「60歳代」（8.9%）で少ない。

「月に2回程度以上」では、「30歳未満」（58.9%）が最も多く、次いで「30歳代」（40.8%）、「50歳代」（38.2%）、「70歳以上」（37.7%）で多くなっている。

「ほぼ毎月1回以上」では、「30歳未満」（72.6%）が最も多く、次いで「30歳代」（61.3%）が多い。一方、最も少ないのは「40歳代」「70歳以上」（共に49.1%）であるが、これらの年代でも約2人に1人は、「ほぼ毎月1回以上」県外へ出かけるとしている。

次に、職業別の特徴をみると、「ほぼ毎週」は、「学生」（37.0%）が最も多い。「月に2回程度以上」では、「学生」（59.3%）および「会社・団体役員」（59.0%）が多くなっている。「ほぼ毎月1回以上」では、「学生」（70.4%）、「会社・団体役員」（69.2%）、「教員・公務員」（67.2%）が多くなっている（図表不掲載）。

図12 買物や余暇活動などを楽しむために県外へ出かける頻度



特集

8 県内で余暇活動を楽しむ頻度

県内で旅行や社寺散策などの余暇活動を楽しむ頻度を聞いたところ、全体では「ほとんどない」25.4%が最も多く、次いで「2～3か月に1回」20.4%、「年に2～3回」19.9%、「ほぼ毎月1回」11.7%、「月に2回程度」9.9%、「2～3年に1～2回」8.0%が続いている。なお、「ほぼ毎週」は3.7%と少ない(図13)。

頻度の高い順(累計)にみると、「ほぼ毎週」3.7%、「月に2回程度以上」13.6%(3.7%+9.9%)、「ほぼ毎月1回以上」25.4%(3.7%+9.9%+11.7%)となっている。買物や余暇活動などを楽しむために県外へ出かける頻度は、県民の57.1%が「ほぼ毎月1回以上」となっているが、県内で旅行や社寺散策などの余暇活動(買物は含まない)を楽しむ頻度で「ほぼ毎月1回以上」としている県民は、25.4%にとどまっている。

性別でみると、「ほぼ毎週」は、男女でほとんど差がみられない(男性:3.8%、女性:3.5%)。また、「月に2回程度以上」(男性:13.3%、女性:13.5%)、「ほぼ毎月1回以上」(男性:26.8%、

女性:24.3%)についてもほとんど差がみられない。

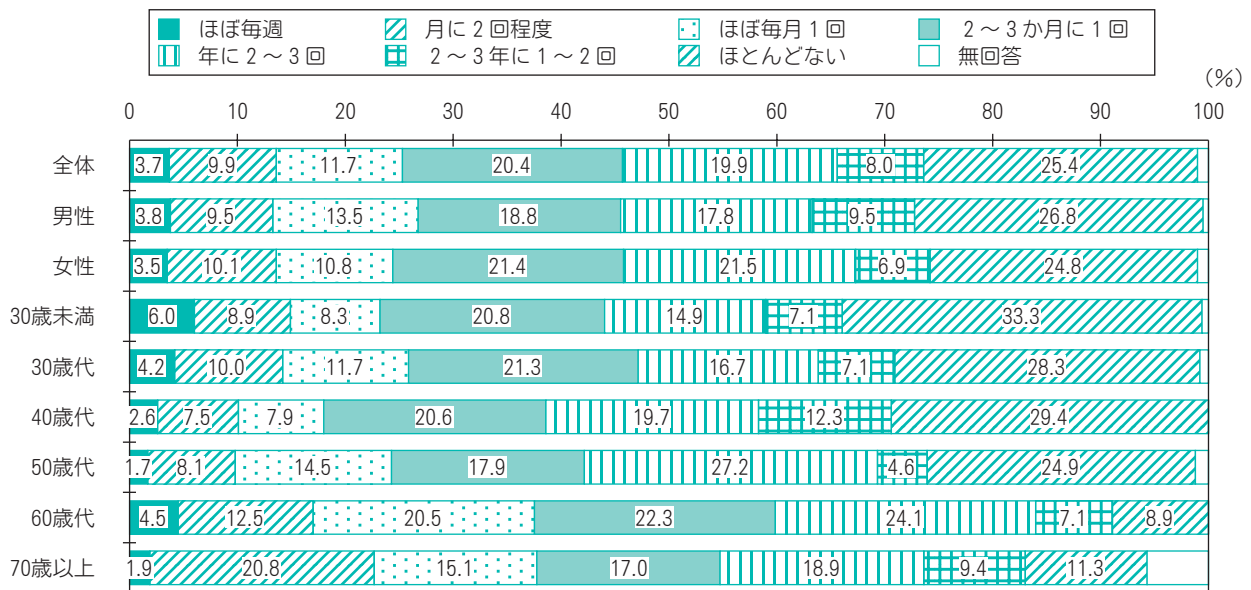
年代別の特徴をみると、「ほぼ毎週」は、「30歳未満」(6.0%)が最も多く、「50歳代」(1.7%)、「70歳以上」(1.9%)で少なくなっている。

「月に2回程度以上」では、「70歳以上」(22.6%)が最も多く、次いで「60歳代」(17.0%)、「30歳未満」(14.9%)、「30歳代」(14.2%)となっている。なお、「50歳代」(9.8%)が最も少ない。

「ほぼ毎月1回以上」では、「70歳以上」(37.7%)が最も多く、次いで「60歳代」(37.5%)、「30歳代」(25.8%)となっており、60歳以上の年代で奈良県内での余暇活動の頻度が多くなっている。なお、「40歳代」(18.0%)が最も少ない。

次に、職業別の特徴をみると、「ほぼ毎週」は「学生」(14.8%)が最も多い。「月に2回程度以上」では、「学生」(22.0%)および「無職(専業主婦を除く)」(18.0%)が多くなっている。「ほぼ毎月1回以上」では、「専業主婦(主夫)」(30.2%)、「無職(専業主婦を除く)」(29.5%)が多くなっている(図表不掲載)。

図13 県内で余暇活動を楽しむ頻度

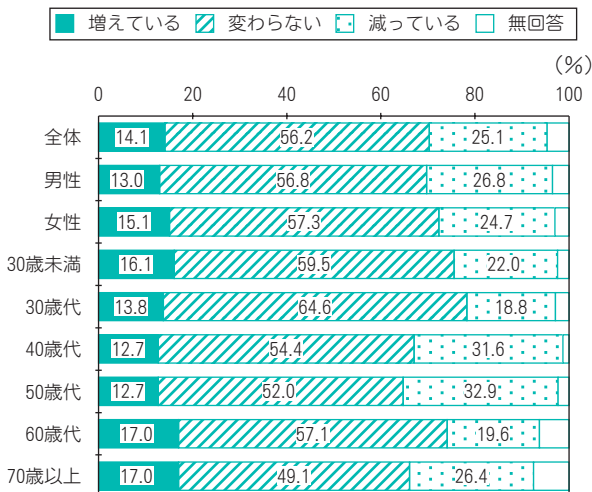


9 県内での余暇活動の増減傾向

数年前と比較して、奈良県内での余暇活動の頻度が増えているか聞いたところ、全体では14.1%が「増えている」としているが、一方で25.1%が「減っている」としている（「変わらない」56.2%）。性別でも「増えている」「減っている」は男女でほとんど差がみられない（図14）。

年代別にみると、「減っている」は「40歳代」（31.6%）、「50歳代」（32.9%）が多くなっている。

図14 県内での余暇活動の増減傾向



10 居住地域を暮らしやすくするための優先課題

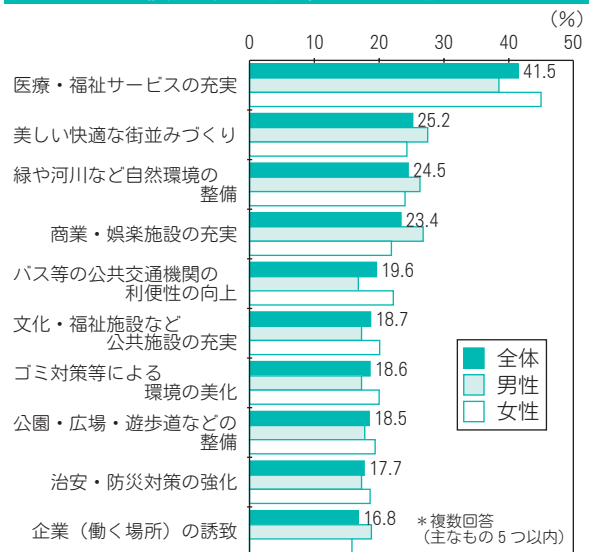
回答者が居住している地域をより暮らしやすくするために、優先して取り組んでほしいと思うこと【13の選択肢の中から複数回答：優先順位の高いもの（主なもの3つ以内）】は何か聞いたところ、全体では「医療・福祉サービスの充実」41.5%が最も多く、次いで「美しい快適な街並みづくり」25.2%、「緑や河川など自然環境の整備」24.5%、「商業・娯楽施設の充実」23.4%、「バス等の公共交通機関の利便性の向上」19.6%、「文化施設・福祉施設など公共施設の充実」18.7%、「ゴミ対策等による環境の美化」18.6%、「公園・広場・遊歩道などの整備」18.5%、「治安・防災

対策の強化」17.7%、「企業（働く場所）の誘致」16.8%が続いている（図15）。

性別でみると、男性では「医療・福祉サービスの充実」38.5%が最も多く、次いで「美しい快適な街並みづくり」27.5%、「商業・娯楽施設の充実」26.8%、「緑や河川など自然環境の整備」26.3%、「企業（働く場所）の誘致」18.8%が続いている。

女性では「医療・福祉サービスの充実」45.0%が最も多く、次いで「美しい快適な街並みづくり」24.3%、「緑や河川など自然環境の整備」24.0%、「バス等の公共交通機関の利便性の向上」22.2%、「商業・娯楽施設の充実」21.9%が続いている。

図15 居住地域を暮らしやすくするための優先課題【上位10項目】



年代別の特徴をみると、「30歳未満」では、「商業・娯楽施設の充実」41.7%が最も多く、次いで「美しい快適な街並みづくり」28.0%、「緑や河川など自然環境の整備」27.4%が続いている（図16）。

「30歳代」以上の全ての年代では、最多（第1位）は「医療・福祉サービスの充実」で、「40歳代」（50.9%）、「50歳代」「60歳代」「70歳以上」（共に49.1%）で他の年代よりもその割合が多くなっている。

第2位以下を年代別にみると、「30歳代」では、第2位「商業・娯楽施設の充実」28.8%、第3位

特集

「美しい快適な街並みづくり」26.7%となっている。

「40歳代」では、第2位「緑や河川など自然環境の整備」24.6%、第3位「バス等の公共交通機関の利便性の向上」21.9%となっている。

「50歳代」では、第2位「緑や河川など自然環境の整備」28.3%、第3位「美しい快適な街並みづくり」27.2%となっている。

「60歳代」では、第2位「緑や河川など自然環境の整備」「文化施設・福祉施設など公共施設の充実」「治安・防災対策の強化」共に26.8%となっている。

「70歳以上」では、第2位「バス等の公共交通機関の利便性の向上」「ゴミ対策等による環境の美化」共に26.4%となっている。

次に、職業別でみると、「学生」は第1位「商業・娯楽施設の充実」37.0%、第2位「緑や河川など自然環境の整備」33.3%となっている（図表不掲載）。

その他の「自営業者（含む農業）」「会社員」「会社・団体役員」「教員・公務員」「専業主婦（主夫）」「無職（専業主婦を除く）」「パート・アルバイト」では、第1位が「医療・福祉サービスの充実」となっており、「無職（専業主婦を除く）」（57.4%）、「教員・公務員」（56.3%）で特に多くなっている。

また、「自営業者（含む農業）」では、第2位「緑や河川など自然環境の整備」28.9%、第3位「企業（働く場所）の誘致」25.4%となっている。「会社員」では、第2位「商業・娯楽施設の充実」30.3%、第3位「美しい快適な街並みづくり」27.6%となっている。「専業主婦（主夫）」では、第2位「美しい快適な街並みづくり」24.9%、第3位「公園・広場・遊歩道などの整備」24.3%、第4位「バス等の公共交通機関の利便性の向上」23.7%となっている。

ちなみに、県内企業に対して「奈良県の活力向上のために行政が積極的に取り組むべき分野」を聞いたところ、「製造業の活性化」「企業・産業の新規立地」等のニーズが強くなっている（図17）。

図16 居住地域を暮らしやすくするための優先課題【全体の上位10項目】

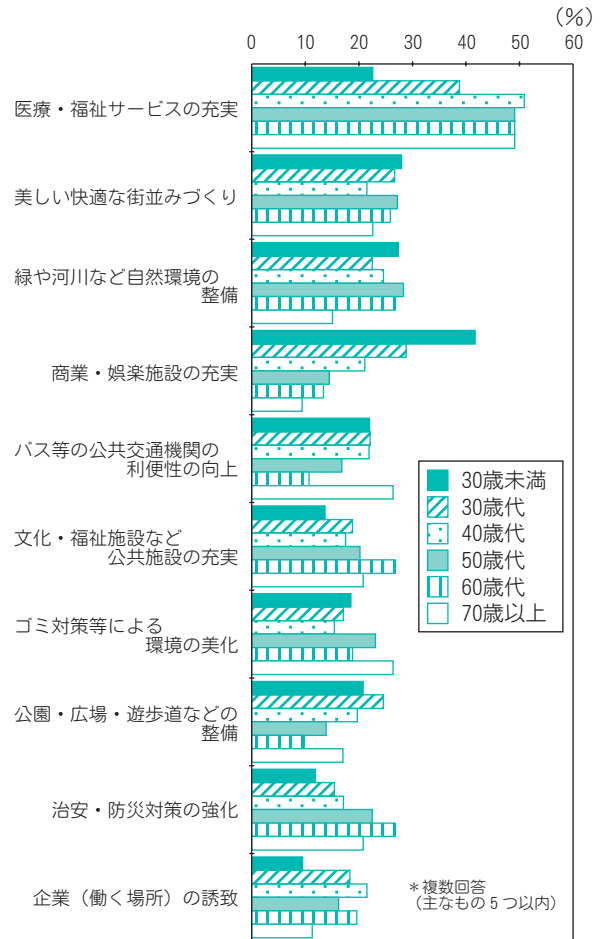
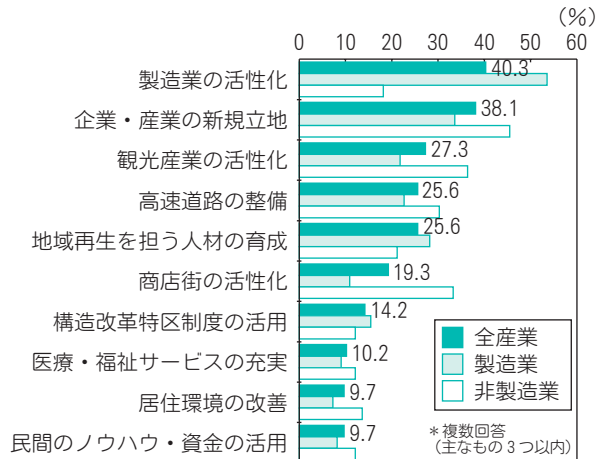


図17 奈良県の活力向上のために行政が積極的に取り組むべき分野【全産業の上位10項目】



11 居住地域別の動向

※調査票では「奈良県」に関するイメージについて質問しているが、当然のことながら、回答者の居住地のイメージがある程度反映された結果となっている。

※奈良県を2~3の地域に集約して分析すると、各地域の特色が相殺されるため、「町」「村」をそれぞれの「郡」に集約するだけにとどめている。なお、山辺郡、宇陀郡、高市郡は人口（1.5万人以下）及び回答数が少ない（計7件）ため、分析の対象外としている。

■奈良県に対するプラスイメージ

奈良県に対するプラスイメージ（良い印象）【複数回答：主なもの5つ以内】を居住地域別にみると、全ての地域において最多（第1位）は「歴史のある」（全体80.2%）となっており、特に「宇陀市」（90.2%）、「生駒郡」（89.4%）、「御所市」（88.0%）、「奈良市」（86.1%）などでその割合が多い（図18）。

一方、「歴史のある」の割合が少ない地域は、「五條市」（67.6%）、「天理市」（68.3%）、「大和高田市」「葛城市」（共に72.7%）などである。

第2位は「葛城市」以外の地域において「落ち着いた」（全体56.8%）となっており、「生駒郡」（66.0%）、「大和郡山市」（65.2%）、「生駒市」（63.4%）、「北葛城郡」（62.3%）などでその割合

が多い。

一方、「落ち着いた」の割合が少ない地域は、「磯城郡」（38.9%）、「大和高田市」（45.5%）などである。

第3位は、全体では「美しい」32.6%であるが、居住地域別でみるとやや分散している。「美しい」が第3位となっているのは、「奈良市」「橿原市」などの5市2郡で、特に「宇陀市」（51.0%）、「吉野郡」（49.0%）でその割合が多い。第3位に「親しみのある」（全体29.6%）が上がっているのは、「香芝市」「生駒郡」などの4市1郡となっている。第3位に「あたたかい」（全体24.4%）が上がっているのは、「御所市」（40.0%）、「大和高田市」（25.0%）の2市である。

また、「便利な」（全体10.3%）では「北葛城郡」（18.8%）が多く、「国際的な」（全体9.3%）では「奈良市」（14.7%）がやや多い。「開放的な」（全体4.8%）では「橿原市」「御所市」（共に12.0%）で多くなっている。

一方、「プラスイメージを持っていない」（全体2.1%）は「五條市」（11.8%）、「大和高田市」（9.1%）で多く、約10人に1人が奈良県に対してプラスイメージ（良い印象）を持っていないとしている。

図18 奈良県に対するプラスイメージ【複数回答：全体の上位13項目】

	n	歴史のある	落ち着いた	美しい	親しみのある	あたたかい	快適な	便利な	国際的な	豊かな	開放的な	活気のある	プラスイメージを持っていない	変化のある
全 体	997	①80.2	②56.8	③32.6	29.6	24.4	15.3	10.3	9.3	8.9	4.8	2.9	2.1	1.5
奈良市	231	①86.1	②61.0	③29.4	26.8	26.0	19.0	11.7	14.7	9.5	5.2	3.5	0.9	1.3
大和高田市	44	①72.7	②45.5	22.7	20.5	③25.0	18.2	13.6	6.8	8.8	2.3	0.0	9.1	2.3
大和郡山市	46	①80.4	②65.2	21.7	③34.8	21.7	10.9	6.5	10.9	13.0	2.2	0.0	2.2	2.2
天理市	60	①68.3	②53.3	31.7	③36.7	21.7	13.3	6.7	8.3	8.3	3.3	8.3	0.0	1.7
橿原市	75	①78.7	②60.0	③33.3	25.3	17.3	17.3	13.3	4.0	8.0	12.0	2.7	1.3	0.0
桜井市	49	①77.6	②49.0	③32.7	28.6	24.5	8.2	10.2	4.1	6.1	2.0	2.0	4.1	2.0
五條市	34	①67.6	②50.0	③29.4	26.5	20.6	5.9	0.0	11.8	11.8	5.9	2.9	11.8	0.0
御所市	25	①88.0	②52.0	20.0	32.0	③40.0	12.0	4.0	8.0	4.0	12.0	0.0	4.0	4.0
生駒市	71	①80.3	②63.4	28.2	③31.0	22.5	16.9	12.7	7.0	11.3	2.8	1.4	0.0	4.2
香芝市	46	①80.4	②50.0	34.8	③37.0	34.8	13.0	13.0	2.2	10.9	4.3	2.2	0.0	2.2
葛城市	22	①72.7	③36.4	②45.5	27.3	27.3	18.2	0.0	9.1	9.1	4.5	0.0	4.5	0.0
宇陀市	51	①90.2	②54.9	③51.0	31.4	25.5	9.8	2.0	5.9	5.9	2.0	3.9	2.0	0.0
生駒郡	47	①89.4	②66.0	27.7	③40.4	23.4	14.9	6.4	10.6	10.6	8.5	4.3	0.0	0.0
磯城郡	36	①83.3	②38.9	33.3	②38.9	16.7	8.3	13.9	5.6	8.3	5.6	2.8	0.0	5.6
北葛城郡	69	①75.4	②62.3	③36.2	29.0	21.7	18.8	18.8	11.6	7.2	1.4	1.4	2.9	1.4
吉野郡	49	①77.6	②57.1	③49.0	20.4	32.7	12.2	6.1	8.2	8.2	4.1	0.0	2.0	0.0

*「①、②、③」は、各地域における「第1位、第2位、第3位」を表している。

特集

■奈良県に対するマイナスイメージ

奈良県に対するマイナスイメージ（悪い印象）【複数回答：主なもの5つ以内】を居住地域別に見ると、プラスイメージの場合と異なり上位3項目の順位が大きく分散している（図19）。

奈良県全体では最多（第1位）は「保守的な」（全体37.6%）となっているが、居住地域別で「保守的な」が第1位となっているのは7市3郡で、特に「葛城市」（50.0%）、「生駒郡」（48.9%）、「香芝市」（45.7%）、「宇陀市」（45.1%）でその割合が多い。一方、「保守的な」の割合が少ないのは、「大和郡山市」（21.7%）、「北葛城郡」（26.1%）などである。

「活気がない」（全体の第2位：35.1%）が第1位となっているのは2市1郡で、「桜井市」（51.0%）、「五條市」（47.1%）でその割合が多い。一方、「活気がない」の割合が少ない地域は、「香芝市」（23.9%）、「橿原市」（25.3%）などである。

「閉鎖的な」（全体の第3位：31.3%）が第1位となっているのは3市で、「葛城市」（40.9%）、「御所市」（40.0%）でその割合が多い。一方、「閉鎖的な」の割合が少ない地域は、「磯城郡」（22.2%）、「桜井市」（22.4%）、「北葛城郡」（23.2%）などである。

「不便な」（全体の同率第3位：31.3%）が第1位となっているのは2市1郡で、「五條市」（58.8%）、「葛城市」（45.5%）、「生駒郡」（42.6%）でその割合が多い。一方、「不便な」の割合が少ない地域は、「大和高田市」（25.0%）、「香芝市」（26.1%）、「橿原市」（26.7%）、「生駒市」（26.8%）などである。

その他の特徴としては、「おくらしている」（全体25.2%）では「生駒郡」（38.3%）が多く、「葛城市」（13.6%）、「御所市」（16.0%）、「生駒市」（16.9%）で少なくなっている。また、「変化を嫌う」（全体20.1%）では、「大和郡山市」（10.9%）が少ない。

「さびれた」（全体13.5%）では「磯城郡」（25.0%）、「御所市」（24.0%）、「宇陀市」（23.5%）が多く、「橿原市」（4.0%）、「大和高田市」（6.8%）、「生駒市」（7.0%）で少なくなっている。

「古くさい」（全体13.4%）では「生駒郡」（21.3%）が多く、「野暮ったい」（全体8.3%）では「御所市」（16.0%）、「生駒郡」（14.9%）で多い。「退屈な」（全体7.3%）では「大和郡山市」（19.6%）が多く、「貧しい」（全体5.9%）では、「五條市」（17.6%）が多い。

図19 奈良県に対するマイナスイメージ【複数回答：全体の上位13項目】

	n	保守的な	活気がない	閉鎖的な	不便な	おくらしている	変化を嫌う	さびれた	古くさい	マイナスイメージを持っていない	堅苦しい	野暮ったい	退屈な	貧しい
全 体	997	①37.6	②35.1	③31.3	31.3	25.2	20.1	13.5	13.4	8.6	8.3	8.3	7.3	5.9
奈 良 市	231	①41.6	②39.8	③32.5	28.6	26.4	19.0	12.1	14.7	8.2	10.0	12.1	9.1	5.2
大和高田市	44	①34.1	②27.3	②27.3	25.0	29.5	25.0	6.8	9.1	9.1	9.1	4.5	4.5	6.8
大和郡山市	46	21.7	①32.6	③26.1	②28.3	23.9	10.9	17.4	13.0	17.4	13.0	8.7	19.6	0.0
天 理 市	60	①33.3	31.7	①33.3	①33.3	23.3	18.3	15.0	10.0	8.3	13.3	3.3	8.3	6.7
橿 原 市	75	①36.0	25.3	②34.7	③26.7	25.3	22.7	4.0	10.7	9.3	9.3	9.3	12.0	4.0
桜 井 市	49	②36.7	①51.0	22.4	③30.6	28.6	22.4	18.4	10.2	8.2	2.0	6.1	4.1	10.2
五 條 市	34	③35.3	②47.1	③35.3	①58.8	29.4	14.7	17.6	5.9	14.7	0.0	2.9	5.9	17.6
御 所 市	25	②32.0	②32.0	①40.0	②32.0	16.0	24.0	24.0	16.0	16.0	8.0	16.0	0.0	8.0
生 駒 市	71	②38.0	③32.4	①39.4	26.8	16.9	22.5	7.0	11.3	7.0	14.1	8.5	8.5	2.8
香 芝 市	46	①45.7	23.9	②28.3	③26.1	③26.1	③26.1	13.0	15.2	10.9	8.7	4.3	4.3	2.2
葛 城 市	22	①50.0	③40.9	③40.9	②45.5	13.6	13.6	13.6	18.2	0.0	9.1	4.5	0.0	4.5
宇 陀 市	51	①45.1	②39.2	③35.3	③35.3	31.4	23.5	23.5	13.7	5.9	5.9	2.0	3.9	13.7
生 駒 郡	47	①48.9	②42.6	29.8	②42.6	38.3	23.4	12.8	21.3	6.4	2.1	14.9	6.4	2.1
磯 城 郡	36	①41.7	③27.8	22.2	②33.3	25.0	16.7	25.0	13.9	2.8	11.1	2.8	11.1	5.6
北 葛 城 郡	69	③26.1	①27.5	23.2	①27.5	23.2	15.9	14.5	17.4	10.1	4.3	11.6	2.9	7.2
吉 野 郡	49	①36.7	32.7	③34.7	②36.7	18.4	22.4	14.3	10.2	4.1	8.2	6.1	2.0	2.0

* 「①、②、③」は、各地域における「第1位、第2位、第3位」を表している。

■ 奈良県の経済・産業に対する認識

「発展・成長している」(全体 5.7%)が多い地域は、「香芝市」(10.9%)、「橿原市」(10.7%)などとなっている。一方、「衰退している」が多い地域は、「磯城郡」(55.6%)、「桜井市」(53.1%)、「宇陀市」(51.0%)、「大和高田市」(50.0%)、「御所市」(48.0%)となっており、約2人に1人が奈良県の経済・産業の衰退を懸念している。なお、「衰退している」が少ない地域は、「生駒市」(22.5%)、「橿原市」(24.0%)、「北葛城郡」(24.6%)である(図20)。

■ 居住地域の生活環境の変化

回答者が居住している地域の生活環境の変化(5年程前との比較)は、「(かなり+やや)良くなっている」が多い地域は、「香芝市」(67.4%)、「北葛城郡」(56.5%)、「天理市」(51.7%)である。また、同割合が少ない地域は「御所市」(16.0%)、「宇陀市」(19.6%)となっており、大きな地域間格差がみられる。

一方、「(かなり+やや)悪くなっている」が多い地域は、「宇陀市」(58.8%)、「御所市」(44.0%)

、「吉野郡」(42.9%)などで、同割合が少ない地域は「北葛城郡」(7.2%)、「香芝市」(8.7%)となっている(図21)。

図20 奈良県の経済・産業に対する認識

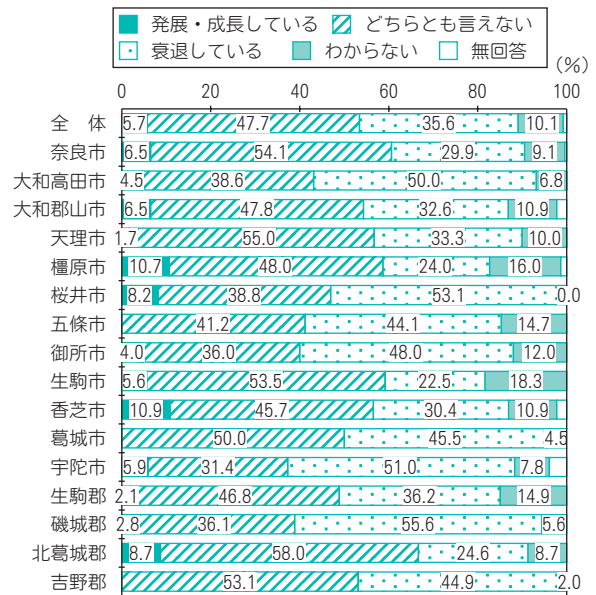
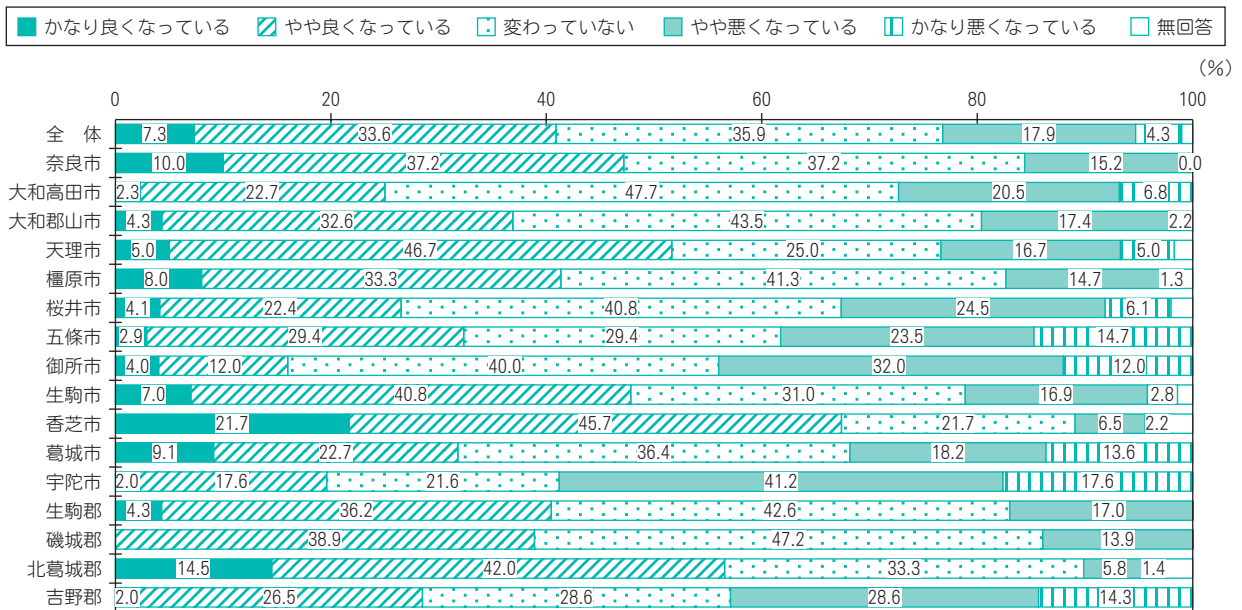


図21 居住地域の生活環境の変化【5年程前との比較】



特集

■奈良県への愛着

奈良県への愛着の有無は、「(非常に+少し)感じている」が多い地域は、「生駒郡」(91.5%)、「吉野郡」(89.8%)、「天理市」(88.3%)、「生駒市」(87.3%)、「奈良市」「大和郡山市」(共に87.0%)となっている。また、「非常に感じている」が多い地域は、「吉野郡」(51.0%)、「生駒市」(45.1%)、「桜井市」(44.9%)となっており、これらの地域では約2人に1人が奈良県に対して強い愛着を感じている(図22)。

一方、「(ほとんど+あまり)感じていない」が多い地域は、「磯城郡」(22.2%)、「御所市」(20.0%)、「桜井市」(18.4%)、「葛城市」(18.2%)、「宇陀市」(17.6%)となっており、約5人に1人が奈良県への愛着を感じていない。また、「ほとんど感じていない」が多い地域は「大和高田市」(9.1%)で、約11人に1人とその割合が特に多い。

■奈良県民であることの誇り

奈良県民であることの誇りの有無は、「(非常に+少し)思う」が多い地域は、「吉野郡」(87.8%)、「葛城市」(72.7%)、「生駒郡」(70.2%)、「生駒市」(69.0%)などとなっている。また、「非常に思う」が多い地域は、「生駒市」(32.4%)、「御所市」(28.0%)となっている(図23)。

一方、「(ほとんど+あまり)思わない」が多い地域は、「磯城郡」(36.1%)、「宇陀市」(33.3%)、「大和高田市」(29.5%)、「桜井市」(28.6%)、「橿原市」(28.0%)となっており、約3人に1人が奈良県民であることを誇りとしていない。また、「ほとんど思わない」が多い地域は、「大和高田市」(9.1%)となっている。

図22 奈良県への愛着

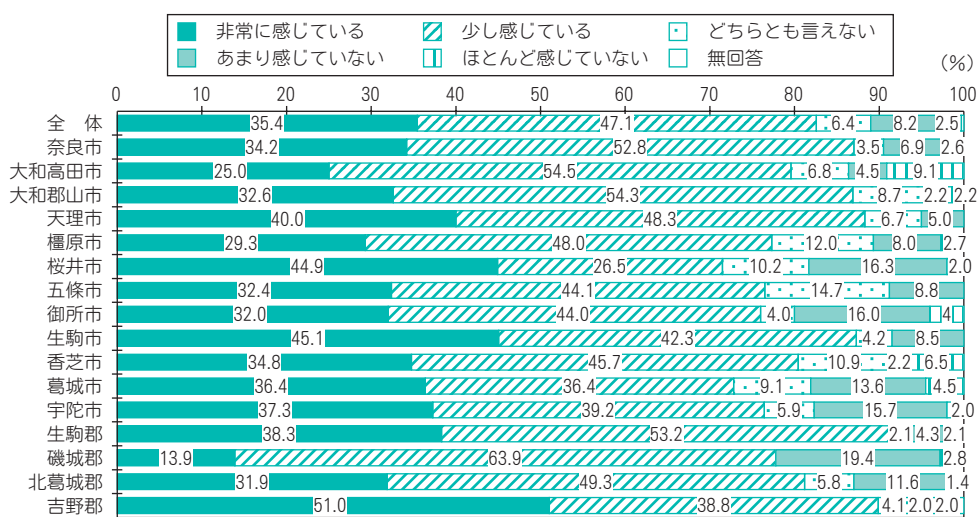
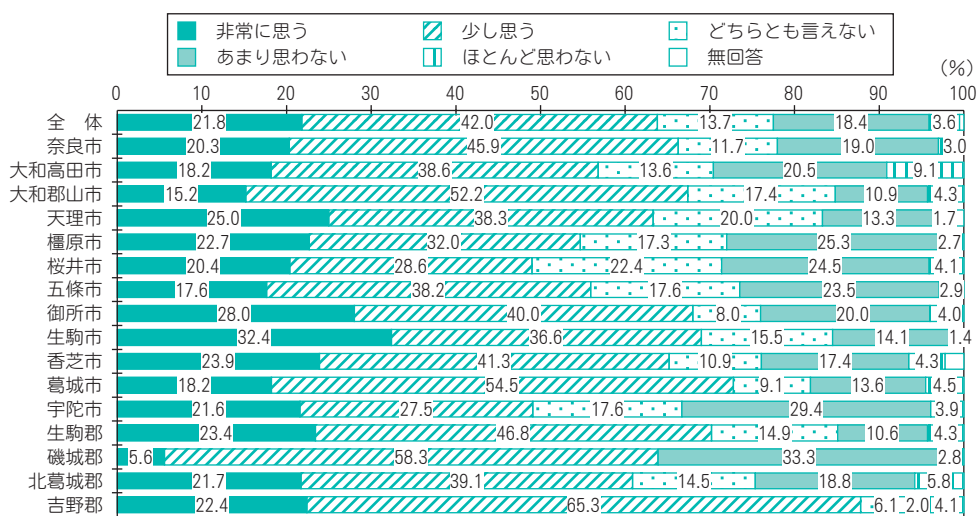


図23 奈良県民であることの誇り



■買物や余暇活動等で県外へ出かける頻度

買物や余暇活動などを楽しむために県外へ出かける頻度【頻度の高い順（累計）】については、「ほぼ毎週」（全体 12.4%）は、「五條市」（20.6%）、「御所市」（20.0%）、「生駒市」（18.3%）、「生駒郡」（17.0%）などで多くなっている（図 24）。

また、「月に 2 回程度以上」（全体 40.0%）は、「生駒市」（52.1%）、「北葛城郡」（49.3%）で多く、「ほぼ毎月 1 回以上」（全体 57.1%）は、「生駒市」（70.4%）、「北葛城郡」（63.8%）、「大和郡

山市」（63.0%）、「奈良市」（62.8%）で多くなっている。

一方、「ほとんどない」（全体 6.8%）は、「葛城市」（18.2%）、「大和高田市」（13.6%）、「天理市」（13.3%）が多い。

■県内で余暇活動を楽しむ頻度

県内で余暇を楽しむ頻度【頻度の高い順（累計）】については、「ほぼ毎週」（全体 3.7%）は、「天理市」（8.3%）、「大和高田市」（6.8%）、「大和郡山市」（6.5%）でやや多くなっている（図 25）。

また、「月に 2 回程度以上」（全体 13.6%）は、「天理市」（25.0%）、「御所市」（20.0%）で多く、「ほぼ毎月 1 回以上」（全体 25.4%）は、「天理市」（36.7%）、「北葛城郡」（33.3%）で多くなっている。

一方、「ほとんどない」（全体 25.4%）は、「桜井市」（32.7%）、「五條市」（32.4%）、「生駒郡」（31.9%）などで多い。

図 24 買物や余暇活動などを楽しむために県外へ出かける頻度

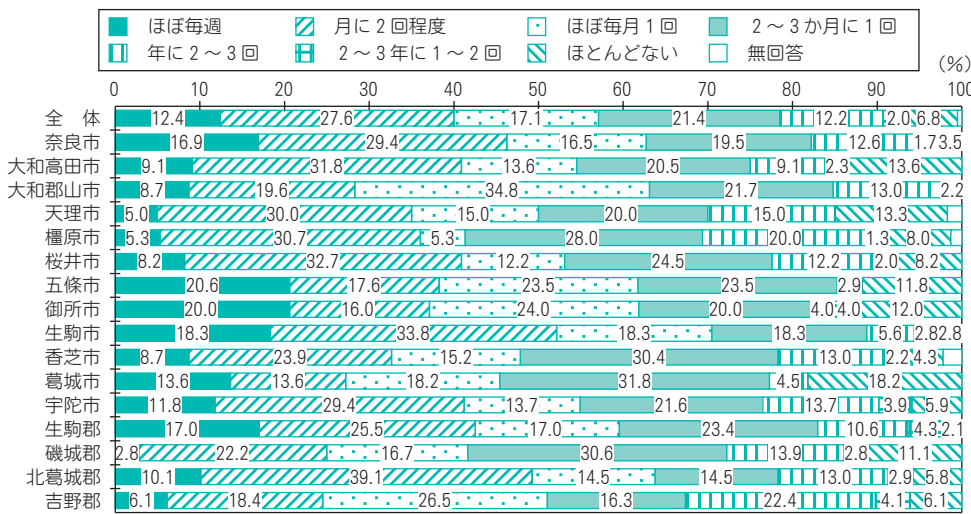
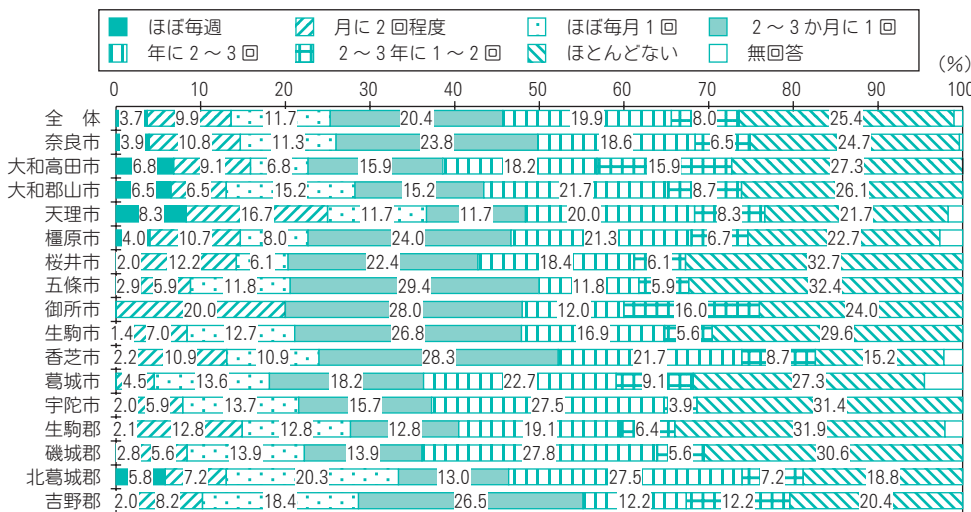


図 25 県内で余暇活動を楽しむ頻度

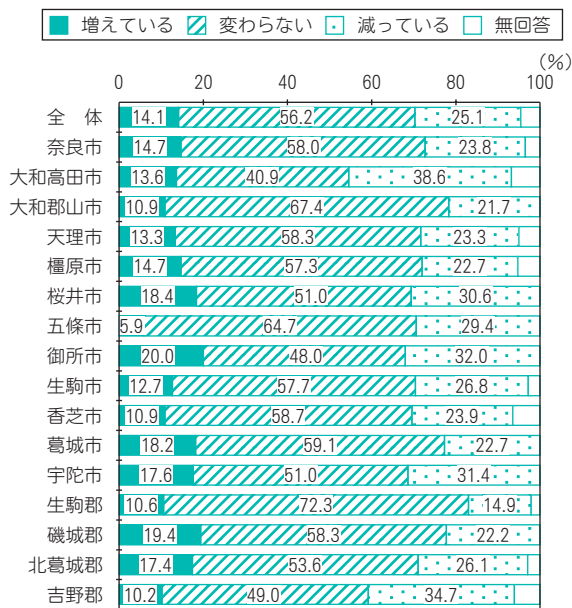


特集

■県内での余暇活動の増減傾向

奈良県内での余暇活動の頻度の増減傾向（数年前との比較）については、「増えている」（全体14.1%）は、「御所市」（20.0%）、「磯城郡」（19.4%）、「桜井市」（18.4%）などで多くなっている（図26）。

図26 県内での余暇活動の増減傾向



一方、「減っている」（全体25.1%）は、「大和高田市」（38.6%）、「吉野郡」（34.7%）、「御所市」（32.0%）、「宇陀市」（31.4%）などで多くなっている。

■居住地域を暮らしやすくするための優先課題

居住地域をより暮らしやすくするため優先課題【複数回答：優先順位の高いもの（主なもの3つ以内）】については、「医療・福祉サービスの充実」（全体の第1位：41.5%）が第1位となっているのは10市3郡で、「五條市」（64.7%）、「吉野郡」（53.1%）、「橿原市」（52.0%）などでその割合が多い。

残りの2市1郡の第1位は、「大和郡山市」では「商業・娯楽施設の充実」39.1%、「天理市」では「美しい快適な街並みづくり」31.7%、「磯城郡」では「緑や河川など自然環境の整備」「商業・娯楽施設の充実」共に25.0%（同率1位）となっている（図27）。

また、「ゴミ対策等による環境の美化」（全体18.6%）は「大和郡山市」（28.3%）、「御所市」（28.0%）で多く、「企業（働く場所）の誘致」（全体16.8%）は、「葛城市」（36.4%）、「吉野郡」（30.6%）で多い。

図27 居住地域を暮らしやすくするための優先課題【複数回答：全体の上位13項目】

	n	医療・福祉サービスの充実	美しい快適な街並みづくり	緑や河川など自然環境の整備	商業・娯楽施設の充実	バス等の公共交通機関の利便性の向上	文化施設・福祉施設など公共施設の充実	ゴミ対策等による環境の美化	公園・広場・遊歩道などの整備	治安・防犯対策の強化	企業（働く場所）の誘致	舗装・拡幅などによる道路の整備	迷惑な駐車・駐輪の取り締まり	高速道路の整備
全体	997	①41.5	②25.2	③24.5	23.4	19.6	18.7	18.6	18.5	17.7	16.8	15.1	13.0	9.1
奈良市	231	①44.2	②26.0	20.3	19.5	20.3	③24.7	16.0	22.1	19.0	16.0	19.0	13.9	9.5
大和高田市	44	①43.2	②29.5	②29.5	27.3	20.5	9.1	15.9	15.9	25.0	13.6	11.4	11.4	6.8
大和郡山市	46	28.3	②34.8	②34.8	①39.1	13.0	10.9	28.3	34.8	13.0	8.7	10.9	19.6	6.5
天理市	60	②28.3	①31.7	③26.7	23.3	21.7	21.7	15.0	23.3	23.3	11.7	13.3	8.3	8.3
橿原市	75	①52.0	②22.7	②22.7	17.3	10.7	18.7	18.7	16.0	②22.7	13.3	20.0	14.7	12.0
桜井市	49	①40.8	②26.5	20.4	32.7	16.3	②26.5	24.5	20.4	14.3	18.4	10.2	22.4	4.1
五條市	34	①64.7	②29.4	20.6	③26.5	14.7	8.8	8.8	8.8	26.5	20.6	17.6	8.8	23.5
御所市	25	①36.0	20.0	③28.0	②32.0	24.0	24.0	28.0	8.0	12.0	20.0	12.0	12.0	8.0
生駒市	71	①43.7	②28.2	22.5	19.7	③25.4	11.3	21.1	18.3	15.5	14.1	15.5	22.5	8.5
香芝市	46	①37.0	17.4	21.7	③26.1	23.9	③26.1	10.9	②28.3	21.7	21.7	21.7	6.5	6.5
葛城市	22	①50.0	18.2	13.6	18.2	13.6	22.7	18.2	13.6	4.5	②36.4	③27.3	4.5	18.2
宇陀市	51	①51.0	13.7	21.6	②35.3	21.6	③25.5	23.5	17.6	11.8	21.6	9.8	5.9	9.8
生駒郡	47	①44.7	②31.9	②31.9	19.1	21.3	17.0	23.4	23.4	21.3	6.4	21.3	8.5	6.4
磯城郡	36	16.7	13.9	①25.0	①25.0	③22.2	11.1	16.7	11.1	11.1	19.4	16.7	16.7	13.9
北葛城郡	69	①37.7	26.1	②36.2	24.6	③30.4	13.0	15.9	15.9	14.5	18.8	11.6	17.4	5.8
吉野郡	49	①53.1	22.4	③24.5	20.4	16.3	14.3	22.4	4.1	③24.5	②30.6	8.2	4.1	10.2

* 「①、②、③」は、各地域における「第1位、第2位、第3位」を表している。

総 括

■奈良県に対するイメージ

プラスイメージの第1位は「歴史のある」80.2%で、2位以下を23ポイント以上引き離している。一方、マイナスイメージは「保守的な」37.6%が最多で、以下「活気がない」「閉鎖的な」「不便な」の3項目が30%代で続いている。県民の約3人に1人が抱く、このようなマイナスイメージの形成は、行政・民間の姿勢や行動、経済活動の沈滞、道路網等のインフラの未整備などが大きな原因になっていると考えられる。

消費・生産活動の主体である、県民が抱いているマイナスイメージの緩和・除去に努めない限り、奈良県内において消費や余暇活動の増大、若年世代の地元への就業増大、起業増大、事業規模拡大などを大きく期待することは困難であろう。人口減少が本格化するなか、産学官が今まで以上に一丸となって県内経済の活性化に努めていくことが期待される。

■奈良県の経済・産業に対する認識

県民の約3人に1人が奈良県の経済・産業の衰退を懸念しており、「発展・成長している」は僅か5.7%にとどまる。特に働き盛りの40歳代・50歳代の男性では、約58%の人が「衰退している」と捉えている。

「平成17年国勢調査」（総務省）によると、奈良県男性の40歳代・50歳代の県外就業率は、それぞれ40.2%、42.0%と、県民全体の同率（29.3%）よりも特に多い。彼らは日頃から県外の動向を見聞しており、奈良県の経済・産業に対する見方が特に厳しくなっていると思われる。団塊世代のリタイアが始まっており、県外就業からもたらされる所得の減少幅が大きくなってくると予想されることから、県内での経済・産業の活性化は不可欠と言える。

一方、「30歳未満」の約3割が「わからない」としており、ホームページや広報誌等を利用して、県内経済の現状や展望、行政の取組みなどの情報をより分かりやすく提供していくことが必要であろう。

■居住地域の生活環境の変化

居住地域の生活環境の捉え方に大きな開きがあ

り、世代間格差や地域間格差が発生していると思われる。

「60歳代」では約10人に1人（9.8%）が「かなり悪くなっている」としているが、これは定年を迎え居住地域での活動時間の増大に伴い、生活環境のマイナス面・不便さ等に関心が高まったためと思われる。

■奈良県への愛着、奈良県民であることの誇り

県民の約1割が「（奈良県に愛着を）感じていない」、また約2割が「（奈良県民であることを誇りに）思わない」としている。県民の誰もが奈良県に愛着を抱く、また県民であることを誇りに思えるような、行政、まちづくり、積極的な情報提供などが期待される。

なお、「教員・公務員」は、「（愛着を）感じていない」が職業別で最多（14.1%）であり、「（誇りに）思わない」の割合も最多（29.7%）である。奈良県の将来を担う子供を教える立場にある教員や、県民の暮らしをサポートする立場にある公務員の方々において、このような結果となっているのは残念なことである。

■買物や余暇活動等で県外へ出かける頻度

県民の約6割が買物・余暇活動で「ほぼ毎月1回以上」県外へ出かけており、消費が県外に流出しているとも言える。今後、県内で大型ショッピングセンター等の建設・拡張も予定されており、県外への消費流出が少しでも緩和されることを期待したい。

■県内で余暇活動を楽しむ頻度、その増減傾向

「（県内での余暇活動は）ほとんどない」25.4%が最も多く、県民の約1/4が「（頻度が）減っている」としている。高齢化の進展に伴い、県内での余暇活動はある程度の増加が見込まれるが、行政や民間企業において既存施設等の有効活用やバリアフリー化、情報提供の積極化などの努力が求められる。

■居住地域を暮らしやすくするための優先課題

「医療・福祉サービスの充実」41.5%が最も多い。ハード面の改善のみならず、情報提供や運営システムの充実、人材の確保など、ソフト面も含めた積極的な対応を行政に強く期待したい。

（島田清彦）

特集

参考 回答者の概要

①性別【再掲】

「男性」が40.1%（400人）、「女性」が57.8%（576人）、「無回答（不明）」が2.1%（21人）。

②年齢【再掲】

「30歳代」が24.1%と最も多く、次いで「40歳代」22.9%、「50歳代」17.4%が続いている。

③職業（参考：図2）

「会社員」が30.5%と最も多く、次いで「専業主婦（主夫）」17.0%、「パート・アルバイト」16.2%、「自営業者（含む農業）」11.4%が続いている。

④居住年数（参考：図3）

「30年以上」が49.5%と最も多く、次いで「20年～30年未満」24.2%、「10年～20年未満」13.2%、「5年未満」5.3%が続いている。

⑤同居家族（回答者を含む、参考：図4）

「配偶者」が65.8%と最も多く、次いで「65歳以上の方」26.4%、「小・中学生」22.6%、「高校・大学生」21.7%、「乳幼児」13.7%が続いている。

⑥県外からの転入状況（参考：図5）

「奈良県にずっと住んでいる」が48.9%と最も多い。

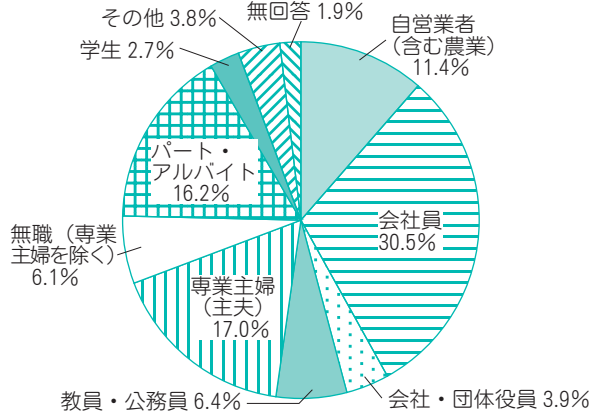
⑦居住地域（参考：図6）

参考：図6 地域別回答数・推計人口等

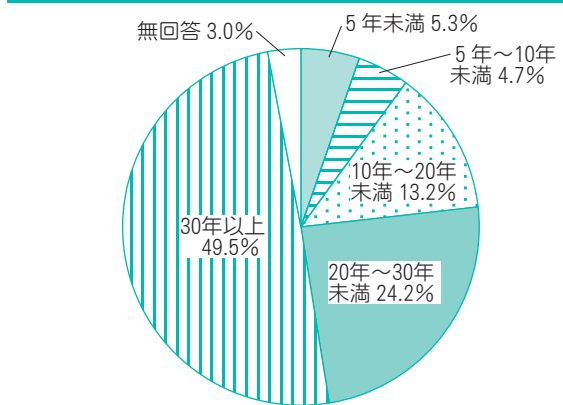
	回答数		人口(人)			
	(件)	構成比	H18.10.1	前年比	増減率	構成比
奈良市	231	23.2	368,969	▲1,113	▲0.3	26.1
大和高田市	44	4.4	70,204	▲598	▲0.8	5.0
大和郡山市	46	4.6	91,002	▲670	▲0.7	6.4
天理市	60	6.0	71,027	▲125	▲0.2	5.0
橿原市	75	7.5	124,662	▲66	▲0.1	8.8
桜井市	49	4.9	61,002	▲128	▲0.2	4.3
五條市	34	3.4	36,663	▲712	▲1.9	2.6
御所市	25	2.5	31,790	▲483	▲1.5	2.2
生駒市	71	7.1	114,294	608	0.5	8.1
香芝市	46	4.6	71,857	859	1.2	5.1
葛城市	22	2.2	35,056	71	0.2	2.5
宇陀市	51	5.1	36,666	▲517	▲1.4	2.6
生駒郡	47	4.7	79,159	▲262	▲0.3	5.6
磯城郡	36	3.6	49,711	▲256	▲0.5	3.5
北葛城郡	69	6.9	99,714	▲246	▲0.2	7.0
吉野郡	49	4.9	51,468	▲999	▲1.9	3.6
その他	7	0.7	23,059	▲352	▲1.5	1.6
無回答	35	3.5	-	-	-	-
県計(全体)	997	100.0	1,416,323	▲4,987	▲0.4	100.0

※資料：奈良県「奈良県推計人口年報」
 ※山辺郡、宇陀郡、高市郡は人口（1.5万人以下）及び回答数が少ないため、「その他」として集計している。

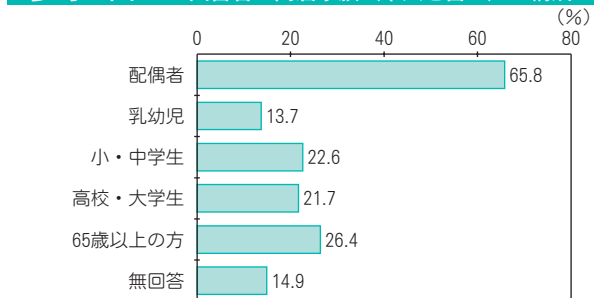
参考：図2 回答者の職業



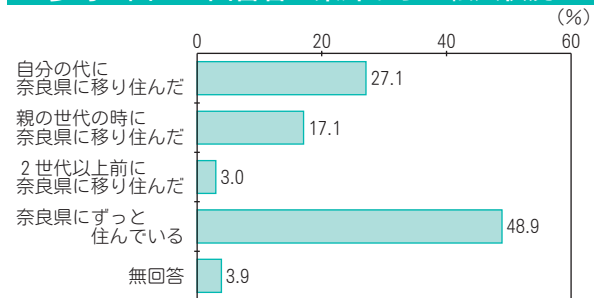
参考：図3 回答者の居住年数



参考：図4 回答者の同居家族(本人を含む)の構成



参考：図5 回答者の県外からの転入状況



対象： 奈良県にお住まいの方

* 特に断りのない限り、選択肢の中から該当する項目を1つ選び、その番号に○をつけて下さい。

奈良県民の生活意識・行動等に関するアンケート

財団法人南都経済センター

問 1. 奈良県に対してどのようなイメージをお持ちですか。次の中からあなたのイメージに近いもの【**主なもの5つ以内**】を選んで下さい。

1. 活気がある
2. 開放的な
3. あたためかい
4. 豊かな
5. 美しい
6. 落ち着いた
7. 先進的な
8. 国際的な
9. 親しみのある
10. 変化のある
11. センズが良い
12. 歴史のある
13. 快適な
14. にぎやかな
15. 便利な
16. エキサイティングな
17. ブライスマイメージを持っていない
18. その他 (具体的に:)

問 2. 奈良県に対してどのようなイメージ(悪い印象)をお持ちですか。次の中からあなたのイメージに近いもの【**主なもの5つ以内**】を選んで下さい。

1. 活気がない
2. 閉鎖的な
3. つめたい
4. 貧しい
5. きたない
6. 落ち着きのない
7. おくれている
8. 保守的な
9. 堅苦しい
10. 変化を嫌う
11. 野暮っぽい
12. 古くさい
13. 不快な
14. さびれた
15. 不便な
16. 退屈な
17. ブライスマイメージを持っていない
18. その他 (具体的に:)

問 3. 奈良県の経済・産業について、どのような認識をお持ちですか。

1. 発展・成長している
2. 衰退している
3. どちらとも言えない
4. わからない

問 4. あなたがお住まいの地域の生活環境は、5年前と比較してどのようになっていますか。

1. かなり良くなっている
2. やや良くなっている
3. やや悪くなっている
4. かなり悪くなっている
5. 変わっていない・どちらとも言えない

問 5. あなたは奈良県に愛着を感じていますか。

1. 非常に感じている
2. 少し感じている
3. あまり感じていない
4. ほとんど感じていない
5. どちらとも言えない

問 6. あなたは奈良県民であることを誇りに思いますか。

1. 非常に思う
2. 少し思う
3. あまり思わない
4. ほとんど思わない
5. どちらとも言えない

問 7. 買物や余暇活動などを楽しむために、県外へ出かける頻度はどれくらいですか。

1. ほぼ毎週
2. 月に2回程度
3. ほぼ毎月1回
4. 2～3か月に1回
5. 年に2～3回
6. 2～3年に1～2回
7. ほとんどない

問 8. 県内で旅行や社教策などの余暇活動を楽しめる頻度はどれくらいですか。

1. ほぼ毎週
2. 月に2回程度
3. ほぼ毎月1回
4. 2～3か月に1回
5. 年に2～3回
6. 2～3年に1～2回
7. ほとんどない

問 9. 数年前と比較すると、奈良県内での余暇活動の頻度は増えていますか。

1. 増えている
2. 減っている
3. 変わらない

問 10. あなたがお住まいの地域をより暮らしやすくするために、優先して取り組んでほしいと思うことは何ですか。優先順位の高いもの【**主なもの3つ以内**】を選んで下さい。

1. 美しい快適な街並みづくり
2. 文化施設・福祉施設など公共施設の充実
3. 商業・娯楽施設の充実
4. 医療・福祉サービスの充実
5. 治安・防災対策の強化
6. 公園・広場・遊歩道などの整備
7. ゴミ対策等による環境の美化
8. 迷惑な駐車・駐輪の取り締まり
9. 緑や河川など自然環境の整備
10. バス等の公共交通機関の利便性の向上
11. 舗装・拡幅などによる道路の整備
12. 高速道路の整備
13. 企業(働く場所)の誘致
14. その他(具体的に:)

【あなたご自身のことについてお伺いします】

- あなたの性別は? 1. 男性 2. 女性
- あなたの年齢は? 1. 19歳以下 2. 20～29歳 3. 30～39歳 4. 40～49歳
5. 50～59歳 6. 60～69歳 7. 70歳以上

● あなたの職業は?

1. 自営業者(含む農業)
2. 会社員
3. 会社・団体役員
4. 教員・公務員
5. 専業主婦(主夫)
6. 無職(専業主婦を除く)
7. パート・アルバイト
8. 学生
9. その他()

● 同居されているご家族(あなたを含む)で、以下にあてはまる方がいらっしゃいますか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。

1. 配偶者
2. 乳幼児
3. 小・中学生
4. 高校・大学生
5. 65歳以上の方

● 県外からの転入状況は?

1. 自分の代に奈良県に移り住んだ
2. 親の世代の時に奈良県に移り住んだ
3. 2世代以上前に奈良県に移り住んだ
4. 奈良県にずっと住んでいる

● 奈良県内での居住年数は?

1. 1年未満
2. 1年～5年未満
3. 5年～10年未満
4. 10年～20年未満
5. 20年～30年未満
6. 30年以上

● 居住されている市町村は? () 市・町・村

ご協力ありがとうございました。